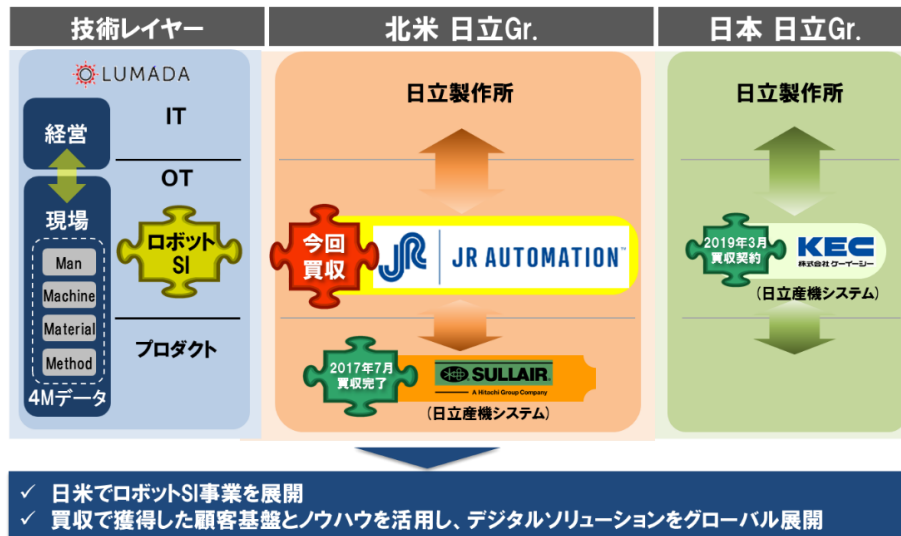


News Release

2019年4月24日
株式会社日立製作所

日立が米国のロボットシステムインテグレーター JR オートメーション社の買収契約を締結

高成長が続く北米のロボット SI*1 事業に参入し、OT*2 領域の顧客基盤や技術・ノウハウを獲得することで、現場と経営をつなぐデジタルソリューション事業のグローバル展開を加速



今回の買収による日立のロボット SI 事業展開と 4M*3 データ活用イメージ

株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)は、米国の JR Automation Technologies, LLC(CEO:Bryan Jones/以下、JR オートメーション社)を中核としたロボット SI 事業を、Crestview Partners(以下、クレストビュー社)の関係会社より取得する買収契約を4月23日に締結しました。本契約による産業用ロボットを活用した生産ラインや物流システムの構築事業を展開する JR オートメーション社の買収を通じ、日立は、高成長が見込まれる北米のロボット SI 事業に参入します。日立とクレストビュー社は、本契約に基づき、買収に関する認可手続きや諸条件の整備を進め、2019年中に買収を完了する予定です。

今後、日立のインダストリーセクター*4は、株式会社日立産機システム(以下、日立産機)が2019年3月に買収契約を締結した*5、日本のロボットシステムインテグレーターである株式会社ケーイーシー(以下、ケーイーシー)とともに、グローバルでロボット SI 事業を展開していきます。

日立は2017年に空気圧縮機の製造・販売を手がける米国のサルエアー社を買収し、北米の産業用プロダクト事業に本格参入しています*6。今回、JR オートメーション社の高度なロボット SI 事業に関する技術やノウハウ、リソース、OT 領域の顧客基盤の獲得を通じ、日立のインダストリーセクターは、お客さまの現場から得られる 4M データをベースに、デジタル技術を活用した Lumada ソリューションをグローバルに展開することで、現場と経営のシームレスな連携や事業全体の価値向上に貢献していきます。

近年、製造・流通分野では、生産年齢人口の減少やグローバル競争激化、メガリコール対策向けの品質向上ニーズなどを背景として、自動化のニーズが高まっており、ロボットを活用した世界のオートメーション市場は年平均 10%を超える高い成長率で拡大を続けています。

JR オートメーション社は、1980 年の創業以来、産業用ロボットを活用した生産ラインを構築するロボット SI 事業を、北米を中心に世界各地で展開してきました。特定ラインだけでなく生産ライン全体の設計・構築・調整が可能であり、ロボットを活用した組み立て・溶接工程にも独自の知見や強みを持ち、自動車や航空機、e コマース、医療機器など幅広い業界に強固な顧客基盤を有しています。

日立のインダストリーセクターでは、産業系の顧客のベストソリューションパートナーをめざし、プロダクト、OT、IT を併せ持つ強みを生かして、現場の 4M データを活用した Lumada ソリューション事業を展開しています。こうした中、OT 領域の事業強化に向けて、2019 年 3 月には日立産機が日本のロボットシステムインテグレーターであるケーイーシーの買収契約を締結しました。

今回、日立は、JR オートメーション社が長年培ってきた高度なロボット SI 事業に関する技術・ノウハウやリソースに加え、幅広い業界の顧客基盤を獲得します。また、JR オートメーション社は、日立が有する高度な研究開発の技術やリソースを活用するとともに、データを活用したロボット SI 事業の高付加価値化を図ります。

日立のインダストリーセクターでは、国内やアジアを中心に基盤を持つ日立産機やケーイーシーに加え、北米を中心に基盤を持つ JR オートメーション社のリソースを相互活用することにより、ロボット SI 事業のグローバル展開を図っていきます。また、買収によって得た OT 領域の顧客基盤やノウハウを生かし、現場の 4M データを活用した製造・ロジスティクス・メンテナンスの見える化・最適化といった Lumada ソリューションをグローバルに展開します。これにより、現場から経営までをシームレスに見える化・分析することで、お客さまの経営および事業全体の価値向上に貢献していきます。

日立製作所 執行役副社長 青木優和のコメント

「今回、JR オートメーション社の買収について合意することができ、大変嬉しく思います。北米において、JR オートメーション社が持つロボット SI 事業を獲得することは重要なマイルストーンであり、日立が持つプロダクト、OT、IT と先進のデジタル技術を組み合わせ、お客さまに新たな価値を提供することで、社会イノベーション事業のグローバル展開を加速させます。」

JR Automation 社 CEO Bryan Jones のコメント

「今回、日立とのパートナーシップにより、JR オートメーション社のさらなる進化のために、新たなステップを踏み出せることを非常に楽しみにしています。日立と JR オートメーション社は、両社の力を合わせて、次世代のスマートマニュファクチャリング分野における世界有数のリーダーとなり、革新的なカスタムソリューションを通じてお客さまへの価値創造を推進していきます。最後に、我々の飛躍的なグローバル成長に貢献してくれた、クレストビュー社のチームメンバーおよび JR オートメーション社会長(退任予定)の Mike DuBose 氏の優れたパートナーシップとリーダーシップに感謝の意を表します。」

JR オートメーション社の買収価格(保有現金や純負債を含まない)は、1,425 百万ドル(約 1,582 億円)です。なお、買収総額は、JR オートメーション社の正味運転資本金額および純負債額に変動が生じた場合等は、譲渡実行時に修正される可能性があります。

なお、本件では日立側は三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社を、JR オートメーション社とクレストビュー社側はゴールドマン・サックスおよびバンク・オブ・アメリカ・メリルリンチを、それぞれファイナンシャル・アドバイザーとして起用しています。

*1 SI: Systems Integration

*2 OT(Operational Technology): 制御・運用技術

*3 4M: Man(人)、Machine(設備)、Material(材料)、Method(方法)

*4 日立製作所の「2021 中期経営計画」における、注力 5 分野のひとつ。

2019 年 2 月 1 日 日立製作所ニュースリリース「2021 中期経営計画」でめざす、グローバルリーダーへの変革に向けた事業体制の強化について」<http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2019/02/0201b.html>

*5 2019 年 3 月 22 日 日立産機システムニュースリリース「ロボットシステムインテグレーター ケーイーシーの買収契約を締結」<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2019/03/0322.html>

*6 2017 年 4 月 25 日 日立製作所ニュースリリース「日立が空気圧縮機メーカーを買収する契約を締結し、北米の産業ビジネスに本格参入」<http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2017/04/0425.html>

■ JR オートメーション社の概要*7

名 称	JR Automation Technologies, LLC
所 在 地	米国 ミシガン州
代 表 者 の 役 職 ・ 氏 名	CEO Bryan Jones
事 業 内 容	ロボットシステムインテグレーション事業
設 立 年	1980 年
資 本 金 (2018 年 12 月末時点)	約 224 百万米ドル(約 248 億円)
大 株 主 及 び 持 株 比 率	Crestview Partners の関係会社(93%)(間接保有)、その他(7%)
連 結 売 上 高 (2018 年)	約 603 百万米ドル(約 670 億円)
総 従 業 員 数 (2019 年 3 月末時点)	約 2,000 人

*7 1 米ドル=111 円で計算。

■ 今後の業績に与える影響

2020年3月期の日立連結決算において、重要な影響をおよぼすことが明らかになった場合には、速やかにお知らせします。

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
